



柳川市の現状

平成17年9月30日

柳川市 総務部 企画課

目次

1	位置	1
2	人口・世帯数	1
	(1) 総人口	1
	(2) 年齢別人口	2
	(3) 世帯数	4
3	産業	5
	(1) 産業別就業構造	5
	(2) 農業	6
	(3) 水産業	7
	(4) 工業	8
	(5) 商業	8
	(6) 観光	9
4	都市基盤	11
	(1) 道路網	11
	(2) 公共交通	13
	(3) 市街地整備	14
	(4) 公営住宅	16
	(5) 河川・水路	17
	(6) 情報基盤	17
5	生活環境	17
	(1) 上下水道	17
	(2) ごみ処理	19
	(3) 防災・防犯	19
6	福祉・保健・医療	21
	(1) 福祉	21
	(2) 保健・医療	22
7	教育・文化	23
	(1) 教育	23
	(2) 文化・コミュニティ、スポーツ・レクリエーション	24
8	行財政	27
	(1) 行政	27
	(2) 財政	27

1 位置

柳川市は、福岡県南部、筑後平野の西南端に位置し、西側は有明海に面し、東は瀬高町、東南は高田町、北は大川市、筑後市、大木町に接しています。東西11km、南北12kmで、市域面積は76.90km²となっています。

土地の利用状況を地目別に見ると、宅地が15.9%、田や畑などの耕地が53.8%、雑種地などその他の地目が30.2%となっています。

地理的には、福岡都市圏と南九州を結ぶ南北軸と、長崎と大分を結ぶ東西軸とが交差する位置にあり、有明海沿岸道路や九州新幹線などの高速交通網が整備されることで、より発展する潜在能力を持っている地域です。

面積及び土地の利用状況

		柳川市	柳川地区	大和地区	三橋地区
面積 (km ²)		76.90	37.23	22.78	16.89
面積比 (%)	宅地	15.9	17.3	13.0	16.9
	耕地	53.8	51.5	58.8	52.3
	雑種地等	30.2	31.2	28.2	30.8

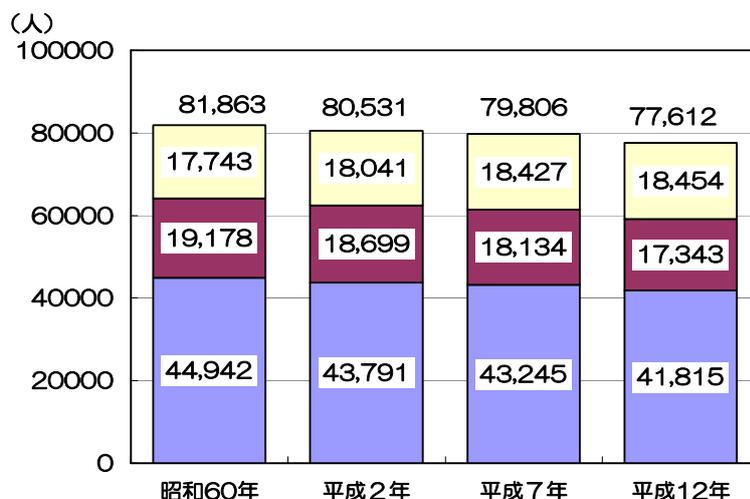
(資料) 平成15年度 土地に関する概要調査

2 人口・世帯数

(1) 総人口

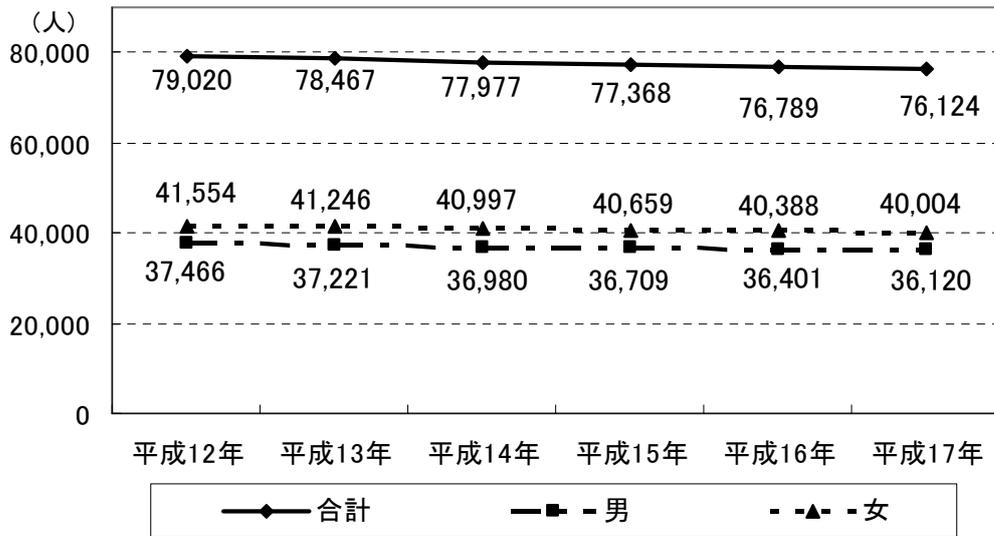
平成12年国勢調査でみると、柳川市の総人口は77,612人で、平成7年の国勢調査と比べ2,194人減少しています。三橋地区は昭和50年から少しずつ増え続けていますが、柳川市全体では昭和55年から減少を続けています。

総人口の推移



(資料) 国勢調査

【参考：住民基本台帳による男女別人口の推移】

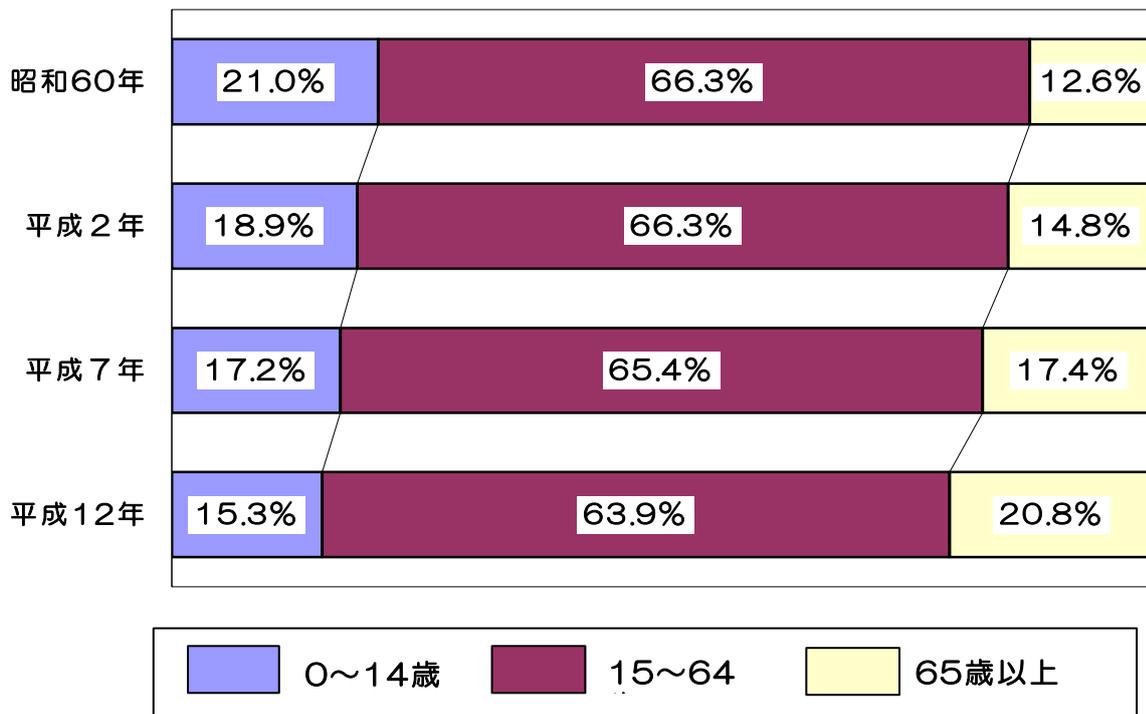


(注) 各年3月31日現在

(2) 年齢別人口

年齢3階級別の柳川市の人口構成比(平成12年)をみると、0～14歳の年少人口が15.3%、15～64歳の生産年齢人口が63.9%、65歳以上の老年人口が20.8%となっています。年少人口は昭和60年と比較して5.7%低下しており、少子化傾向が顕著に進んでいます。老年人口は県平均、全国平均と比較しても高い水準で移行しており、着実に高齢化が進んでいます。今後高齢化はますます進み、平成27年には30%を超えることが予測されています。

柳川市の年齢3階級別人口構成比の推移



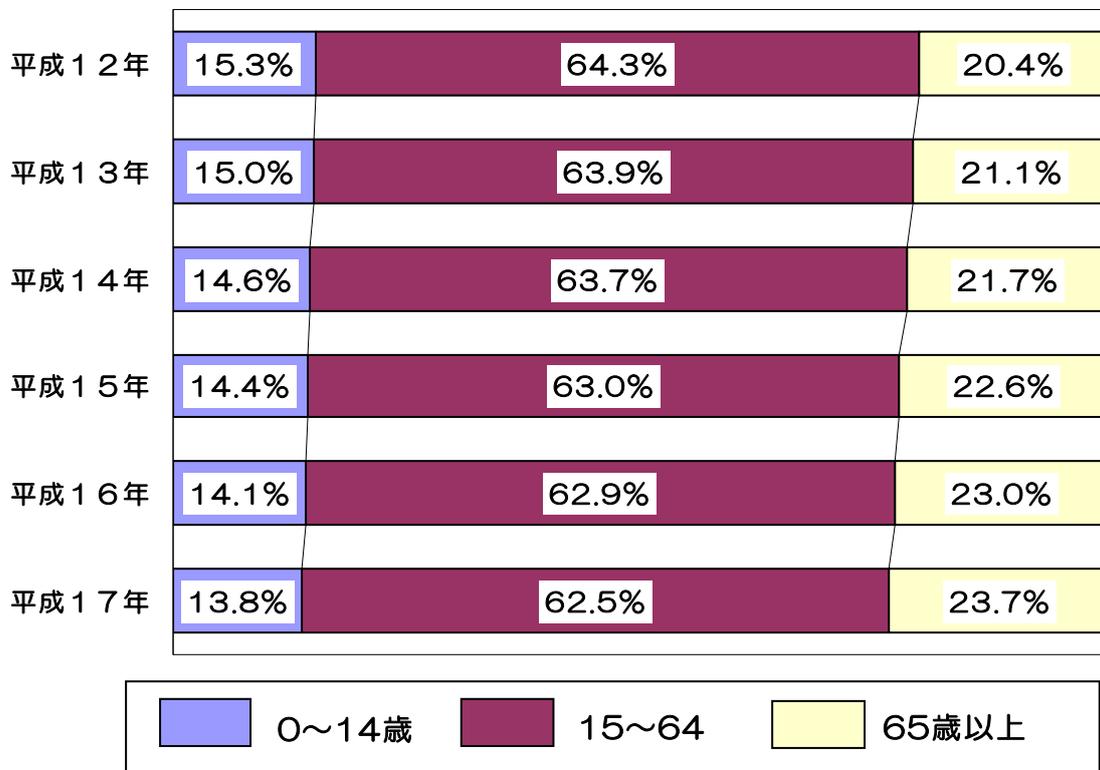
県・国との比較

(単位：%)

区分	0～14歳	15～64歳	65歳以上
柳川市	15.3	63.9	20.8
福岡県	14.8	67.8	17.4
全 国	14.6	68.1	17.3

(資料) 平成12年国勢調査

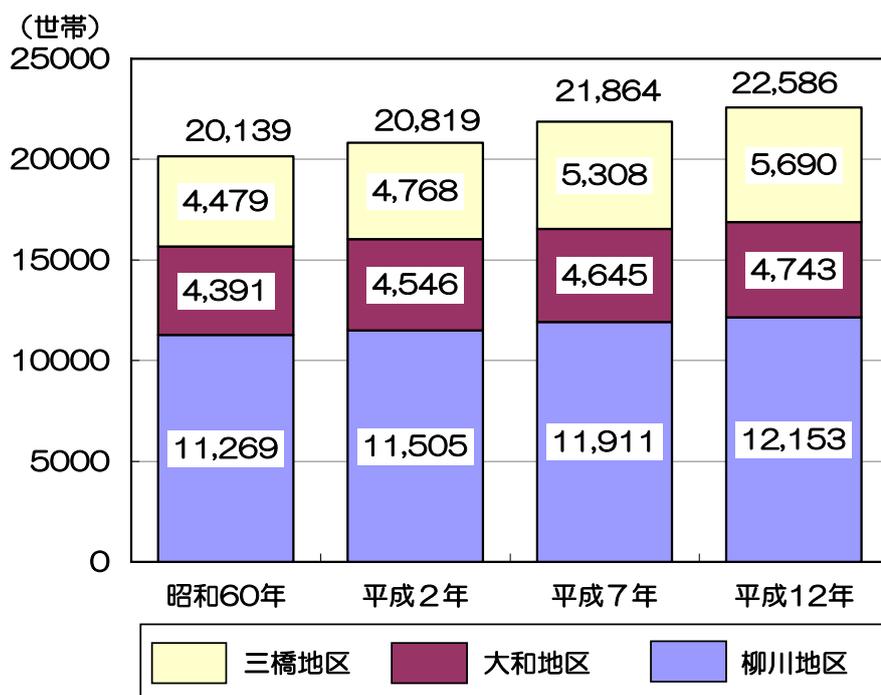
【参考：住民基本台帳による年齢別構成比の推移】



(3) 世帯数

柳川市の世帯数は22,586世帯（平成12年）で、昭和60年からみても着実に増えていきます。1世帯あたりの人数は、昭和60年には4.06人だったものが、平成12年には3.44人に減少しており、核家族化が進んでいることを顕著に表しています。

世帯数の推移



1世帯当たり人数

(単位：人/世帯、指数)

	実 数				指 数			
	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
柳川地区	3.99	3.81	3.63	3.44	100.0	95.4	91.0	86.3
大和地区	4.37	4.11	3.90	3.66	100.0	94.2	89.4	83.7
三橋地区	3.96	3.78	3.47	3.24	100.0	95.5	87.6	81.9
柳川市	4.06	3.87	3.65	3.44	100.0	95.2	89.8	84.5

(資料) 国勢調査

3 産 業

(1) 産業別就業構造

柳川市の就業者総数は36,459人（平成12年）です。構成比は第1次産業（農水産業従事者など）が13.3%、第2次産業（製造業従事者など）が30.5%、第3次産業（商業・サービス業従事者）が56.1%となっています。

産業別就業者の推移では、第3次産業の就業者数は実数、割合とも増加しているのに対し、第1次産業の就業者数は実数、割合とも減少し、農漁業離れが顕著に進んでいます。

それでも、県平均、全国平均に比べると、柳川市は第1次産業の割合が目だって高く、依然として基幹産業としての役割を担っていると言えます。

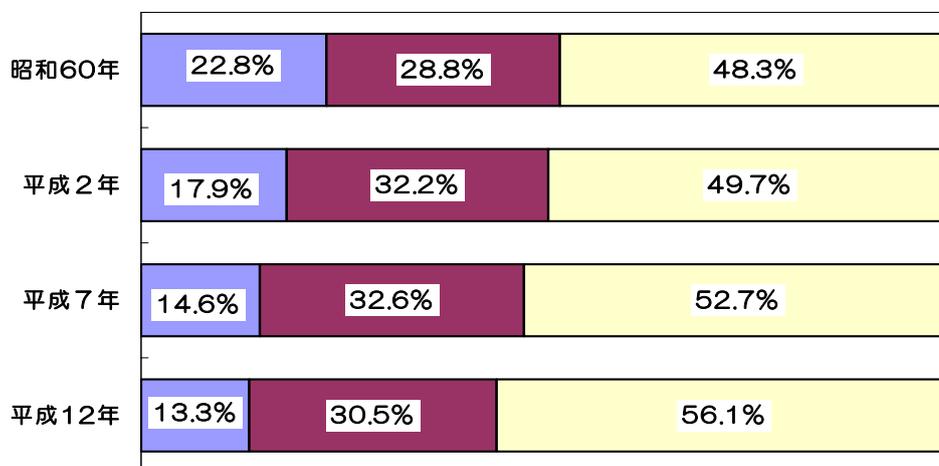
産業別就業者数

(単位：人)

	柳川市		柳川地区		大和地区		三橋地区	
	平成7年	平成12年	平成7年	平成12年	平成7年	平成12年	平成7年	平成12年
第1次産業	5,651	4,865	2,765	2,311	2,111	1,926	775	628
第2次産業	12,577	11,127	6,755	5,980	2,933	2,634	2,889	2,513
第3次産業	20,366	20,467	11,453	11,246	4,027	4,035	4,886	5,186
計	38,594	36,459	20,973	19,537	9,071	8,595	8,550	8,327

(資料：国勢調査)

産業別就業者比率の推移



(参考) 県・国との比較

区分	第1次	第2次	第3次
柳川市	13.3	30.5	56.1
福岡県	3.7	24.4	70.6
全国	5.0	29.5	64.3

(資料) 平成12年国勢調査

(2) 農業

柳川市の農家数は3,527戸（平成12年農林業センサス）で、そのうちの12.8%弱に当たる451戸が専業農家です。平成2年から10年間の推移では専業農家は少しずつ増えていますが、兼業農家数は激減しています。

柳川市では古くから米や麦を中心に栽培がなされ、九州の穀倉地帯の一角を占めてきました。しかし生産調整（減反）の影響から、近年、米の作付面積が大きく減っています。そのような中であって、大和地区ではナスのハウス栽培などによる野菜の生産が伸びており、粗生産額も堅調に推移しています。

農家数の推移

（単位：戸）

	柳川市			柳川地区			大和地区			三橋地区		
	専業	兼業	計	専業	兼業	計	専業	兼業	計	専業	兼業	計
平成2年	393	4,040	4,433	149	2,067	2,216	123	1,082	1,205	121	891	1,012
平成7年	416	3,528	3,944	204	1,766	1,970	121	933	1,054	91	829	920
平成12年	451	3,076	3,527	217	1,548	1,765	123	835	958	111	693	804

（資料）農林業センサス

農業粗生産額の推移

（単位：千万円）

	柳川市		柳川地区		大和地区		三橋地区	
	平成元年	平成14年	平成元年	平成14年	平成元年	平成14年	平成元年	平成14年
米	482	292	213	134	162	93	107	65
麦類	83	133	27	47	34	56	22	30
野菜	213	279	69	95	61	118	83	66
果実	19	19	18	16	1	3	0	0
花き	9	14	3	6	1	1	5	7
工芸農作物	153	5	116	3	11	1	26	1
その他	44	59	19	19	13	25	12	15
小計	1,003	801	465	320	283	297	255	184
畜産	84	74	34	33	15	12	35	29
加工農産物	42	5	30	2	4	2	8	1
合計	1,129	880	529	355	302	311	298	214

（資料）福岡農林水産統計年報

(3) 水産業

水産業は柳川市を特徴づける産業のひとつです。しかし漁家戸数・漁業就業者数ともに、平成5年から平成15年の10年間で3割程度減っています。

ノリの収穫量は一定で推移してきました。しかし、記録的な不作に見舞われた平成12年以降、収穫量は安定性を欠いています。

漁業就業者・漁家戸数の推移

(単位：人、戸)

	柳川市		柳川地区		大和地区	
	就業者	戸数	就業者	戸数	就業者	戸数
平成5年	2,714	1,208	1,417	687	1,297	521
平成10年	2,368	1,036	1,128	566	1,240	470
平成15年	1,967	905	920	492	1,047	413

(資料) 漁業センサス

魚種別漁獲量の推移

(単位：トン)

	柳川市				柳川地区				大和地区			
	魚類	貝類	その他	合計	魚類	貝類	その他	合計	魚類	貝類	その他	合計
平成10年	257	4,957	249	5,463	231	4,335	171	4,737	26	622	78	726
平成11年	216	5,886	234	6,336	191	5,003	191	5,385	25	883	43	951
平成12年	225	2,457	1,253	3,935	204	1,894	425	2,523	21	563	828	1,412
平成13年	199	1,279	1,085	2,563	179	1,092	354	1,625	20	187	731	938
平成14年	203	1,569	765	2,537	185	1,389	318	1,892	18	180	447	645
平成15年	167	3,298	600	4,065	159	2,844	303	3,306	8	454	297	759

(資料) 福岡農林水産統計年報

ノリ生産量の推移

(単位：万枚)

	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
柳川地区	49,208	43,673	24,131	55,336	46,549	45,730
大和地区	60,611	54,271	21,517	64,741	46,628	44,484
柳川市	109,819	97,944	45,648	120,077	93,177	90,214

(資料) 福岡農林水産統計年報

(4) 工業

平成15年の従業員4人以上の事業所数は220事業所、従業者数は4,025人、製品出荷額等は約659億円となっています。平成12年以降では、厳しい経済情勢を反映して、事業所数、従業者数とも18.5%と落ち込んでいます。

製造品出荷額は平成14年までは、930億円程度でほぼ横ばいの状態ですが、同15年には約270億円の落ち込みとなっています。柳川市には工業集積地はなく、中小の事業所が市内に点在しています。

工業の状況

(単位：所、人、百万円)

		平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
柳川市	事業所数	293	261	270	230	214	220
	従事者数	5,374	4,943	4,939	4,479	4,021	4,025
	製造品出荷額等	105,527	94,873	93,200	93,566	92,543	65,880
柳川地区	事業所数	157	138	144	127	121	123
	従事者数	3,041	2,807	2,797	2,587	2,315	2,288
	製造品出荷額等	63,635	57,056	55,768	57,883	60,451	34,380
大和地区	事業所数	56	47	50	43	35	38
	従事者数	1040	887	900	808	706	708
	製造品出荷額等	22,676	19,700	19,894	19,853	17,866	17,474
三橋地区	事業所数	80	76	76	60	58	59
	従事者数	1,293	1,249	1,242	1,084	1,000	1,029
	製造品出荷額等	19,216	18,117	17,538	15,830	14,226	14,026

(資料) 工業統計調査 ※従業員4人以上の事業所

(5) 商業

柳川市の商業の状況は、平成14年で商店数1,158店、従業者数5,948人、年間販売額1,369億円となっています。

平成3年からの推移をみると商店数は継続して減少傾向にあり、平成14年までに306店減少しています。従業者は平成6年以降、少しずつ減っています。年間販売額は少しずつ増加してきましたが、大規模小売店の撤退により平成14年は大幅に減っています。

また、柳川市の近隣に郊外型大規模小売店が進出してきていることなどから、地元購買力が流出している状況にあります。

商業の推移

(単位：店、人、百万円)

		平成3年	平成6年	平成9年	平成14年
柳川市	商店数	1,464	1,363	1,300	1,158
	従事者数	5,734	6,203	5,994	5,948
	年間販売額	142,610	158,359	158,411	136,924
柳川地区	商店数	814	754	722	647
	従事者数	2,941	3,282	3,054	3,080
	年間販売額	72,755	87,462	82,913	77,341
大和地区	商店数	303	270	244	226
	従事者数	971	886	865	909
	年間販売額	21,516	25,140	23,582	21,805
三橋地区	商店数	347	339	334	285
	従事者数	1,822	2,035	2,075	1,959
	年間販売額	48,339	45,757	51,916	37,778

(資料) 商業統計調査

(6) 観光

柳川市の観光客数(入込客数)は、平成14年は約126万人と前年に比べ少し減っていましたが、同15年には約143万人とここ5年間でもっとも多くなっています。

入込客数のほとんどは日帰り客であり、総消費額は約56億円となっています。

地区別では入込客の78%、総消費額の98%を柳川地区が占めています。入込客数は川下り、御花などの観光スポットに集中していますが、総数はほぼ横ばい状況が続いており、市内にある観光スポットの開発や連携が課題となっています。

観光入込客数の推移

(単位：千人、百万円)

	柳川市			柳川地区			大和地区			三橋地区		
	入込客	消費額	宿泊客	入込客	消費額	宿泊客	入込客	消費額	宿泊客	入込客	消費額	宿泊客
平成11年	1,202	5,451	81	1,135	5,436	79	16	7	0	51	8	2
平成12年	1,288	5,449	89	1,126	5,343	71	16	7	1	146	99	17
平成13年	1,315	5,628	92	1,148	5,529	79	16	6	1	151	93	12
平成14年	1,259	5,618	83	1,073	5,460	70	15	5	1	171	153	12
平成15年	1,432	5,559	83	1,112	5,426	65	14	5	1	306	168	17

(資料) 福岡県観光入込客推計調査

観光地別の入込客数

(単位：人)

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
川下り	389,137	386,447	407,354	411,470	400,450
北原白秋生家・記念館	127,629	127,665	118,430	106,171	104,474
御花・殿の倉資料館	241,563	242,552	260,742	251,005	288,100
御花・松濤園	29,641	32,763	35,996	39,487	50,962
かんぼの宿 柳川	72,968	89,198	106,088	123,479	126,477
雲龍の館	5,610	4,648	3,600	2,990	2,894
大和干拓	2,771	2,554	2,008	1,733	863
高畑公園・三柱神社	35,000	94,000	103,600	103,600	103,000
熊野神社（中山大フジ）	10,000	25,000	25,000	45,000	140,000
島田天満宮	5,000	6,000	5,500	5,500	5,500

(資料) 福岡県観光入込客推計調査

4 都市基盤

(1) 道路網

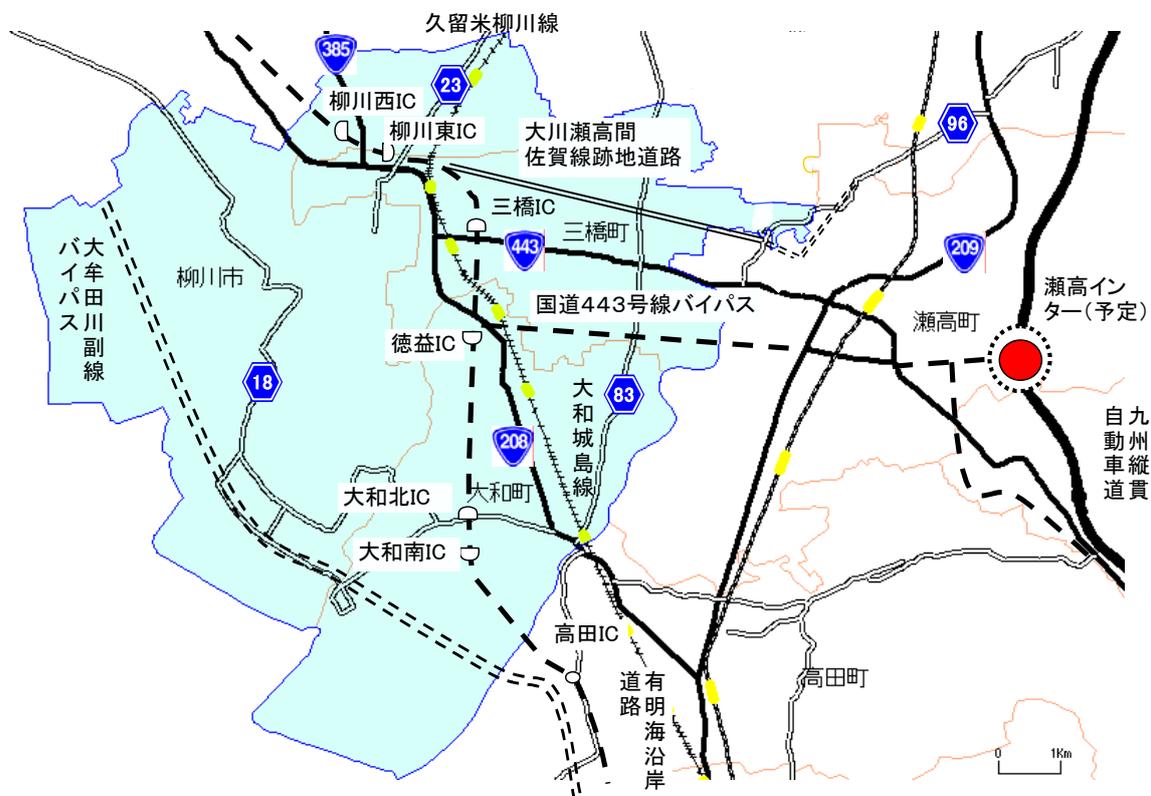
柳川市の道路網は、南北方向に、熊本市から佐賀市に至る国道208号、柳川市から福岡市に至る国道385号、東西方向には大川市から宮原町(熊本県)に至る国道443号があります。

さらに、主要地方道として、大牟田川副線、久留米柳川線、大和城島線があり、国道を補完しています。

近年の交通量の増加に伴う渋滞の発生や安全上の問題に対処するため、有明海沿岸道路(国道208号バイパス)が地域高規格道路として整備が進められており、有明海沿岸各地域へのアクセス向上が期待されています。また、隣接する瀬高町に、九州縦貫自動車道路瀬高インターチェンジが設置されることが決定しており、現在、整備中の国道443号バイパスを活用し、有明海沿岸道路と九州縦貫自動車道路を連結することで、南筑後における交通の要所としての地位向上に大きく貢献することになります。

また身近な生活道路である市道の整備は、側溝の設置や老朽化した道路舗装の補修工事などを行い、住民生活の利便性の向上と安全性の確保に努めています。しかし、市街地や集落内には幅の狭い道路も多く残っており、交通安全や防災面からも問題となっています。

主要道路網図



柳川市の道路網

道路区分	路線番号・路線名	起終点地名
地域高規格道路	有明海沿岸道路	自 大牟田市～至 鹿島市
一般国道	208号線	自 熊本市 ～至 佐賀市
	385号線	自 柳川市 ～至 福岡市
	443号線	自 大川市 ～至 宮原町
主要地方道	大牟田川副線 久留米柳川線 大和城島線 瀬高久留米線 八女瀬高線 大川・瀬高佐賀線跡地道路	
一般県道	柳川城島線 柳川筑後線 高田柳川線 水田大川線 筑後柳川停車場線 橋本辻町線 本町新田大川線 新田西蒲池線 枝光今古賀線 谷垣徳益線 徳益蒲船津線 木元白鳥線	

(資料) 建設課

市道の状況

(単位：m、%)

		柳川市	柳川地区	大和地区	三橋地区
実延長		978,243	452,507	286,416	239,320
改良済	車道19.5m以上	227	40	37	150
	車道13.3m以上	965	595	164	206
	車道5.5m以上	71,994	33,169	19,635	19,190
	車道5.5m未満	520,569	211,445	179,359	129,765
	計	593,755	245,249	199,195	149,311
未改良	車道5.5m以上	175	21	105	49
	車道3.5m以上	1,193	519	381	293
	車道3.5m未満	383,168	206,766	86,735	89,667
	うち通行不能	78,482	43,267	11,345	23,870
	計	384,536	207,306	87,221	90,009
改良率		60.7	54.2	69.5	62.4
舗装率		75.6	73.2	78.6	75.2

(資料) 建設課

(2) 公共交通

公共交通機関は、電車と路線バスが民間事業者により運行されています。

電車は市を南北に縦断する西鉄天神大牟田線があります。柳川駅は特急が停車するため、近隣の市町からの利用者も多く、福岡・久留米方面や大牟田方面への通勤・通学などに利用されています。

路線バスは、西鉄バス、西鉄バス久留米、堀川バスの3社が運行しています。利用客数は、鉄道、バスとも年々減少傾向にあります。

特にバスは、自家用車の普及による利用者の減少に伴い、路線の廃止や運行本数の見直しが行われており、児童や生徒、高齢者などの日常的な足としての機能が果たせなくなっています。

このほか柳川市に隣接する筑後市では、九州新幹線の整備にあわせて船小屋駅（仮称）の設置が検討されており、完成すれば高速交通機能がより充実することが期待されます。

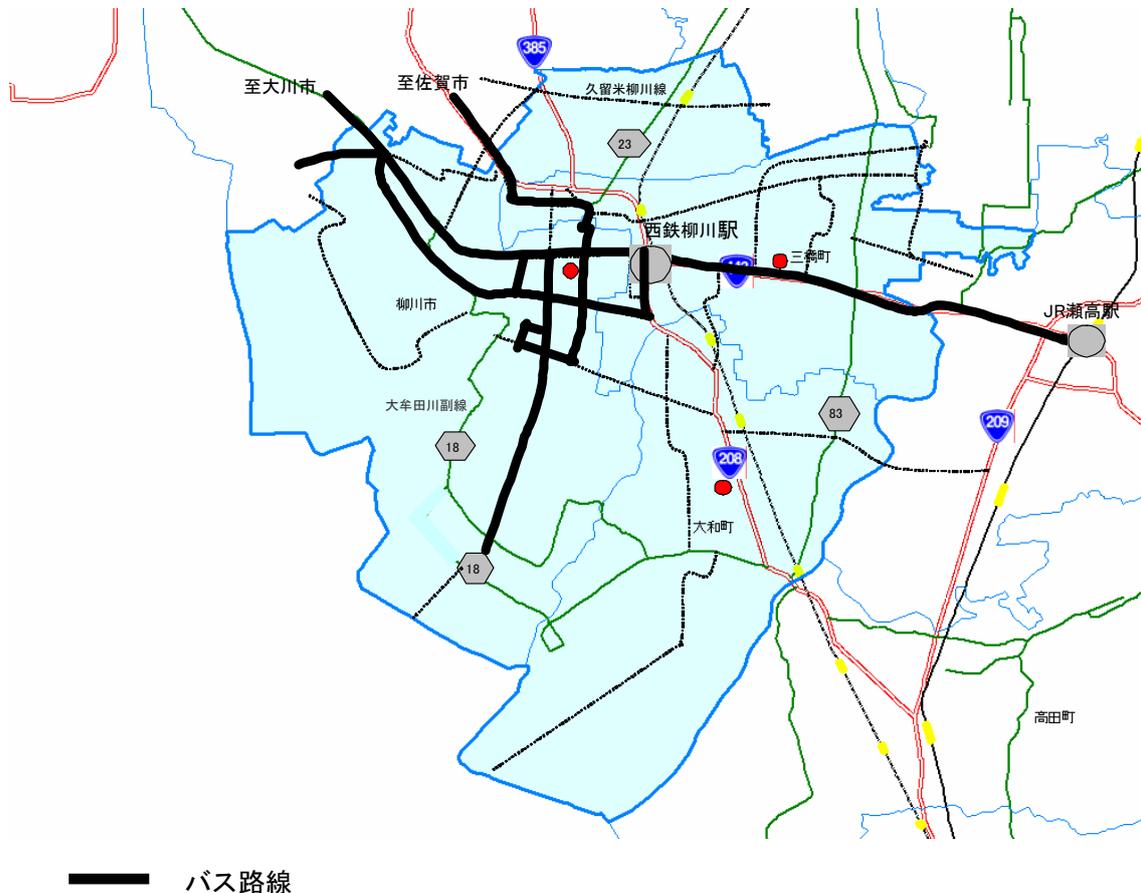
西鉄電車乗降客数の推移

(単位：人)

		平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
蒲池	年間	228,490	216,810	201,115	174,105	165,710	160,965
	1日平均	626	594	551	477	454	441
矢加部	年間	48,545	47,450	43,435	42,705	40,515	37,595
	1日平均	133	130	119	117	111	103
柳川	年間	6,197,335	5,864,455	5,530,845	5,366,230	5,120,220	4,905,600
	1日平均	16,979	16,067	15,153	14,702	14,028	13,440
徳益	年間	122,640	123,735	114,245	105,120	97,455	97,455
	1日平均	336	339	313	288	267	267
塩塚	年間	361,715	315,360	288,350	265,720	251,485	252,215
	1日平均	991	864	790	728	689	691
中島	年間	629,260	563,560	504,430	477,420	455,885	432,890
	1日平均	1,724	1,544	1,382	1,308	1,249	1,186
合計	年間	7,587,985	7,131,370	6,682,420	6,431,300	6,131,270	5,886,720
	1日平均	20,789	19,538	18,308	17,620	16,798	16,128

(資料) 西日本鉄道株式会社

バス路線図



(3) 市街地整備

柳川市の全域は都市計画区域に指定されています。市街地部に相当する用途地域は、759haで全体の約1割を占めています。用途地域のうち8割程度が住居系用途で占められ、中心市街地を形成する商業系用途が全体の約1割となっています。

中心市街地を中心に狭い道路が多く、交通安全の上で危険な状況を生み出しています。加えて建物の老朽化、過密化が顕著な地域もあり、防災上からも問題となっています。また、大規模なイベントを開催できる都市公園や、都市のうるおいを生み出す、公園・緑地なども不足しており、都市景観を含めた市街地整備が急務となっています。

このような問題を解決するために、西鉄柳川駅周辺では柳川駅東部土地区画整理事業を、中島地区では密集住宅総合整備事業を進めています。

都市計画区域・用途地域指定状況

(単位：ha)

		柳川市	柳川地区	大和地区	三橋地区
用途地域	第1種中高層住居専用地域	36.2	36.2	-	-
	第2種中高層住居専用地域	27.8	18.3	-	9.5
	第1種住居地域	487.0	213.4	131.1	142.5
	第2種住居地域	39.8	17.5	-	22.3
	準住居地域	2.0	0.0	-	2.0
	近隣商業地域	21.2	9.9	7.9	3.4
	商業地域	66.2	37.7	4.4	24.1
	準工業地域	78.8	24.0	24.6	30.2
	合計	759.0	357.0	168.0	234.0
用途地域外		6931.1	3366.0	2110.1	1455.0
都市計画区域		7690.0	3723.0	2278.0	1689.0

(資料) 都市計画課

主な公園・緑地 (2,000㎡以上)

	公園名称	面積 (㎡)	設置年
柳川地区	柳城公園	2,253	不明
	白秋詩碑苑	2,250	不明
	むつごろうランド	95,084	昭和62年
	あめんぼ公園	3,897	平成3年
	有明地域観光物産公園	11,151	昭和63年
大和地区	雲龍公園	16,371	平成5年
	明野農村公園	4,750	平成14年
	明古漁村広場	2,183	昭和63年
	大和地区コミュニティ広場	2,000	昭和57年
	皿垣地区コミュニティ広場	4,200	平成14~15年再整備
三橋地区	三橋町高畑公園	7,232	平成6年
	Y O U・遊の森公園	15,700	平成8年
	立花いこいの森	29,890	平成12年

(資料) 都市計画課

(4) 公営住宅

柳川市は17団地557戸の公営住宅を設置しています。これまで公営住宅は、住民に低廉で快適な住宅を提供するとともに、地域の活性化に貢献してきました。しかし柳川地区と三橋地区の多くの公営住宅は、高度成長期以前に建設されています。このため建物や施設の老朽化が問題となっているだけでなく、近年の高齢化の進行、生活水準の向上による生活者のニーズにそぐわなくなってきました。

このようなことから市では計画的な公営住宅の建替事業を進めているほか、公営住宅ストック総合活用計画を作成し建替えに向けての準備を進めています。

公営住宅の現状

柳川地区			大和地区			三橋地区		
団地名	建築年	戸数	団地名	建築年	戸数	団地名	建築年	戸数
椿原町	S28	12	畦無	H元	20	中山	S31	9
隅町南	S29～30	76	鷹園	H10～11	61	垂見3	S43～44	10
本町	S30	24				中山2	S45	30
鳥の水	S41～42	37				江曲	S53～58	54
筑紫	S52	16				中山3	S46	10
佃	S55	24				柳河	S47～48	10
吉富	H11	54				桜ノ木	S49	10
蒲池立石	H15～H16	100						
計		343	計		81	計		133
柳川市合計								557

(注)平成17年4月1日現在

(資料)建設課

(5) 河川・水路

柳川市を流れる矢部川等の河川は、水路（クリーク）の水源としての役割を果たしています。水路は市域を網の目のように張り巡らされており、農業基盤施設としての役割を持っています。また景観上の特徴となっており、水路の一部は観光用の川下りにも利用されています。近年は生活排水の流れ込みにより、水質悪化が懸念されています。あわせて、土盛りなどの自然護岸が多いことから、崩壊への対応など維持・管理にかかるコストも大きなものとなっています。

(6) 情報基盤

高度情報化社会の進展に伴う情報基盤の整備は、柳川市が地域イントラネット整備事業を実施し、図書館や校区公民館、各小中学校を専用高速回線で結んでいます。図書館や校区公民館には、誰でも利用できるパソコンを設置し、気軽にインターネットを利用できるようにしています。

5 生活環境

(1) 上下水道

上水道は、日常生活に不可欠な水を供給する重要な生活基盤です。平成15年度の普及率は、柳川地区が100%、大和地区が98.3%、三橋地区が94.2%となっています。

なお、柳川市は福岡県南部の市町に水道水を供給している一部事務組合である福岡県南広域水道企業団に加入しています。

下水道は、生活環境を改善し、河川や海等の公共用水域の水質保全等を図るために重要な生活基盤施設です。現在、柳川地区と三橋地区の各一部を対象にした公共下水道事業が行われ、平成14年度から一部利用できるようになりました。公共下水道の計画区域以外の地域では、小型合併処理浄化槽の設置補助を行っており、生活排水の浄化を図っています。

上水道の普及状況

	柳川市	柳川地区	大和地区	三橋地区
行政区域内人口 (人)	76,866	41,438	17,343	18,085
給水人口 (人)	75,520	41,438	17,048	17,034
給水戸数 (戸)	23,582	13,546	4,520	5,516
普及率 (%)	98.2	100.0	98.3	94.2
施設能力 (m ³)	35,060	24,300	7,900	2,860
年間配水量 (m ³)	7,126,859	5,325,084	1,453,611	348,164
1日最大配水量 (m ³)	28,349	20,094	7,012	1,243
1日平均配水量 (m ³)	19,472	14,549	3,972	951
職員数 (人)	19	12	4	3

(資料)平成15年度 公営企業決算の概要 ※柳川地区の年間配水量等は三橋地区給水分を含む。

下水道整備概要

			柳川市	
事業区域	処理面積	計 画	706 ha	
		認 可	379 ha	
	処理人口	計 画	24,800人	
		認 可	14,700人	
	計画汚水量	計 画	14,800m ³ /日最大	
		認 可	6,700m ³ /日最大	
雨水排除方式			分流式	
処理場	処理能力	計 画	14,800m ³ /日	
		認 可	6,700m ³ /日	
		現在処理	2,300m ³ /日	
	場所		柳川市橋本町630	
	面積		2,179.67m ²	
	処理方法		オキシゲーションイッチ法	

(資料) 平成16年度決算状況調査

下水道処理状況の推移

	平成14年度	平成15年度	平成16年度
処理面積 (ha)	167	167	167
処理人口(人)	3,812	4,811	6,132
接続人口(人)	1,148	2,852	3,273
汚水処理量(m ³ /日最大)	614	1,110	1,253
加入金(受益者負担金)(万円)	10,368	4,947	7,856

(資料) 各年度決算状況調査

小型合併処理浄化槽設置状況の推移

(単位：台)

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年	平成16年度
柳川市	年間	261	357	380	349	358
	累計	3,577	3,934	4,314	4,663	5,021
柳川地区	年間	123	155	155	160	194
	累計	1,496	1,651	1,806	1,966	2,160
大和地区	年間	32	105	74	99	91
	累計	911	1,016	1,090	1,189	1,280
三橋地区	年間	106	97	151	90	73
	累計	1,170	1,267	1,418	1,508	1,581

(注) 累計は、各年度末現在の補助事業による設置数累計

(資料) 生活環境課

(2) ごみ処理

現在、可燃ごみ処理施設としてクリーンセンターを有しています。また、不燃物の最終処分施設として橋本処理場があります。平成15年度での年間処理総量は25,069トンで、そのうち3,523トンが資源化されています。資源化率は14.1%で、平成11年の7.5%と比較すると2倍近くごみの再資源化が進んでいます。

ごみ処理量と資源化率の推移

(単位：トン、%)

	柳川市		柳川地区		大和地区		三橋地区	
	平成11年度	平成15年度	平成11年度	平成15年度	平成11年度	平成15年度	平成11年度	平成15年度
処理総数	24,090	25,069	15,388	15,188	3,650	4,671	5,052	5,210
資源化総量	1,811	3,523	1,020	1,969	350	796	441	758
資源化率	7.5	14.1	6.6	13.0	9.6	17.0	8.7	14.5

(資料) 福岡県「福岡県における一般廃棄物処理の状況」

(3) 防災・防犯

柳川市は周囲を河川や海で囲まれ、台風などによる高潮や河川の氾濫などによる水害の危険にさらされています。地域防災計画、水防計画による避難場所の指定等が行われていますが総合的、効率的な防災体制の確立が重要になっています。

常備消防体制は、市で行い、非常備消防体制としては地域住民による消防団が組織されています。各地区では消防に関連する施設や設備機器の充実に努めていますが、自然の消防水利としての役割を果たしているクリークの水量低下などが問題となっています。

犯罪については、近年、強盗事件などの重大犯罪の発生がみられるようになっており、行

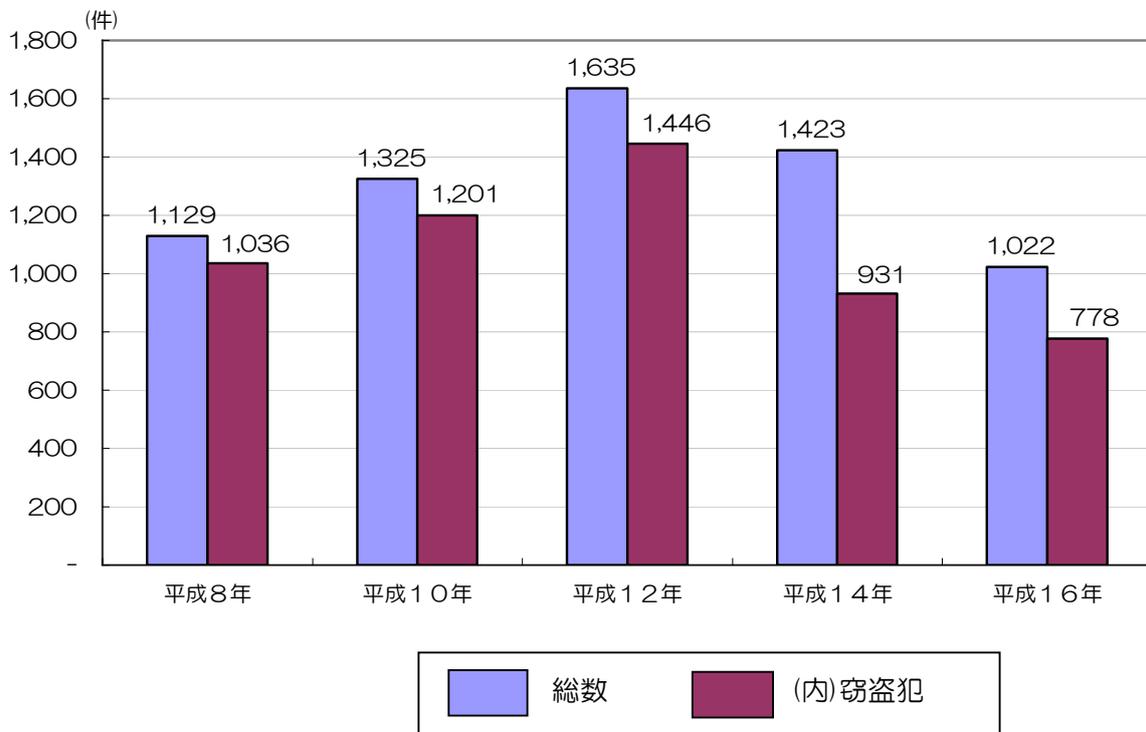
政、警察、地域が一体となった防犯体制づくりが求められています。その一環として、平成15年度から「安全で安心できる まちづくり運動」が展開されています。

火災発生状況(平成16年)

		柳川市	柳川地区	大和地区	三橋地区
発生件数(件)	合計	22	11	4	7
発生内訳(件)	建物	18	10	4	4
	林野	0	0	0	0
	車両	1	0	0	1
	その他	3	1	0	2
焼損棟数(棟)	部分焼・ぼや	15	7	4	4
	半焼	1	1	0	0
	全焼	9	2	4	3
り災世帯数(世帯)	小損	6	3	1	2
	半損	1	1	0	0
	全損	8	6	1	1
死傷者(人)	死者	0	0	0	0
	負傷者	12	9	0	3
焼損面積	建物 (㎡)	2,784.2	1,573.5	927.0	283.7
	林野 (a)	0	0	0	0
損害額(千円)		162,879	114,393	38,547	9,939

(資料) 柳川市消防本部 (消防年報)

犯罪発生件数(柳川警察署管内)の推移



(資料) 福岡県警 (犯罪統計)

6 福祉・保健・医療

(1) 福祉

高齢者保健・福祉施設全体では、定員760人に対し、入所者数は734人、申込者数は557人となっていますが、介護保険対象施設である「特別養護老人ホーム」は定員300人に対し、入所者数300人、申込者数250人となっており、多くの被保険者が入所待ちの状況にあります。

平成16年の保育園児数は1,797人で、前年に比べ減少し、ほぼ14年水準になっています。定員に対しては若干下回っている状況です。しかし今後の少子化社会にあっても、共働き世帯の増加等により保育サービスの需要は高まるものと予測されます。

高齢者保健・福祉施設

(単位：人)

施設種類	施設名称	所在地	定員	入所者数	申込者数
老人保健施設	水郷苑	柳川地区	100	97	95
	柳川やすらぎの里	柳川地区	100	98	104
	シャンティ	大和地区	60	55	60
特別養護老人ホーム	エルンテハイム	三橋地区	50	48	54
	ふるさとホーム	柳川地区	100	100	45
	第2おやさと	柳川地区	50	50	45
	敬和苑	大和地区	50	50	57
	ありあけ園	三橋地区	50	50	49
	養護老人ホーム	柳光園	柳川地区	50	47
	楠寿園(一部事務組合)	瀬高町	85	80	23
ケアハウス	おやさと	柳川地区	50	44	18
	ケアハウス敬和苑	大和地区	15	15	4
柳川市			760	734	557

(注) 平成16年4月1日現在

(資料) 福祉事務所

高齢者保健・福祉施設の推移

(単位：所、人)

	柳川市		柳川地区		大和地区		三橋地区	
	施設数	入所定数	施設数	入所定数	施設数	入所定数	施設数	入所定数
平成12年度	10	625	6	450	3	125	1	50
平成13年度	10	625	6	450	3	125	1	50
平成14年度	10	625	6	450	3	125	1	50
平成15年度	10	625	6	450	3	125	1	50
平成16年度	11	675	6	450	3	125	2	100

(注) 各年4月1日現在

(資料) 福祉事務所

保育園児数の推移

(単位：人、箇所)

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	保育所数	定員
柳川市	1,738	1,788	1,762	1,774	1,844	1,797	19	1,940
柳川地区	849	869	855	869	896	883	8	965
大和地区	459	482	477	473	447	470	5	480
三橋地区	430	437	430	432	501	444	6	495

(注) 各年4月1日現在

(資料) 福祉事務所

(2) 保健・医療

市内の病院数は、平成14年現在で8箇所（病床数979床）、一般診療所は58箇所（病床数284床）、歯科診療所は37箇所となっています。

高齢化の進展や生活習慣病の増加、社会環境の変化により、保健・医療への需要が高まっていますが、病院立地の面で地域的な偏りがみられます。

また、高度救急救命医療を行う医療機関は市内にはなく、久留米大学付属病院の救命救急センターを利用している状況にあります。

医療施設数・病床数

(単位：院、床)

	病院		一般診療所			病床数	歯科診療所数
			施設数				
	施設数	病床数	総数	有床診療所	無床診療所		
柳川市	8	979	58	23	34	284	37
柳川地区	6	844	33	15	18	163	24
大和地区	0	0	8	2	6	28	5
三橋地区	2	135	17	6	11	93	8

(注) 平成14年10月1日現在

(資料) 医療統計 平成14年10月1日現在

医療施設数・病床数の推移

(単位：院、床)

	病院		一般診療所			病床数	歯科診療所数
			施設数				
	施設数	病床数	総数	有床診療所	無床診療所		
平成12年	8	979	57	24	33	297	38
平成13年	8	979	57	23	34	291	37
平成14年	8	979	58	23	35	284	37

(注) 各年10月1日現在

(資料) 医療統計

7 教育・文化

(1) 教育

柳川市全体では、平成16年度現在、幼稚園が10園、園児数415人、小学校19校、児童数4,456人、中学校6校、生徒数2,447人となっています。少子化の影響等もあり児童・生徒数は減少傾向にあります。特に幼稚園は保育園と比較して大きく定員割れしています。

校舎などの施設は非木造がほとんどですが、一部では老朽化が進んでいるため、建築経過年数に応じた維持補修工事を逐次進めています。

また、高等学校は公立高校が1校、私立高校が2校あります。このほか、特殊学校が1校、専門学校が3校あります。

幼稚園

(単位：園、人)

		柳川市	柳川地区	大和地区	三橋地区	
園数（平成16年）		10	8	1	1	
幼稚園定員		995	845	70	80	
平成12年度	園児数	3歳児	160	129	18	13
		4歳児	196	159	12	25
		5歳児	232	197	15	20
		計	588	485	45	58
平成13年度	園児数	3歳児	161	123	15	23
		4歳児	165	137	15	13
		5歳児	193	156	12	25
		計	519	416	42	61
平成14年度	園児数	3歳児	135	104	13	18
		4歳児	189	142	18	29
		5歳児	161	130	15	16
		計	485	376	46	63
平成15年度	園児数	3歳児	133	114	8	11
		4歳児	147	120	13	14
		5歳児	183	143	16	24
		計	463	377	37	49
平成16年度	園児数	3歳児	107	82	9	16
		4歳児	154	126	12	16
		5歳児	154	122	13	19
		計	415	300	34	51

(資料) 学校基本調査 各年5月1日現在

小学校

(単位：校、人)

	柳川市		柳川地区		大和地区		三橋地区	
	学校数	児童数	学校数	児童数	学校数	児童数	学校数	児童数
平成13年度	19	4,953	8	2,620	6	1,144	5	1,189
平成14年度	19	4,738	8	2,539	6	1,073	5	1,126
平成15年度	19	4,615	8	2,470	6	1,037	5	1,108
平成16年度	19	4,456	8	2,383	6	969	5	1,104

(資料) 学校基本調査 各年5月1日現在

中学校

(単位：校、人)

	柳川市		柳川地区		大和地区		三橋地区	
	学校数	児童数	学校数	児童数	学校数	児童数	学校数	児童数
平成13年度	6	2,609	4	1,413	1	619	1	577
平成14年度	6	2,537	4	1,355	1	620	1	562
平成15年度	6	2,470	4	1,318	1	603	1	549
平成16年度	6	2,447	4	1,277	1	622	1	548

(資料) 学校基本調査 各年5月1日現在

高等学校

(単位：人)

	伝習館高等学校	伝習館高等学校 (定時制)	柳川高等学校	杉森女子高等学校
平成13年度	917	55	1,260	861
平成14年度	882	44	1,171	941
平成15年度	797	50	1,209	811
平成16年度	754	59	1,171	728

(資料) 教育便覧

(2) 文化・コミュニティ、スポーツ・レクリエーション

文化・コミュニティ施設では、地域活動の中核となる公民館や地区センター等の施設は各地区に配置されています。柳川地区は小学校区を単位にした校区公民館をほぼ全域に設置していますが、大和地区と三橋地区にはありません。

スポーツ・レクリエーション施設は体育施設を中心に各地区に配置されており、いずれも域外住民の利用も可能です。

各地区では、これらの施設を利用して生涯学習講座や文化活動などが盛んに行われています。

主な文化・交流施設

施設種類	施設名称	所在地
公立図書館	柳川市立図書館	柳川地区
	柳川市立図書館両開分館	柳川地区
	柳川市立図書館昭和代分館	柳川地区
	柳川市立図書館蒲池分館	柳川地区
	柳川市立図書館水の郷分室	柳川地区
	柳川市立雲龍図書館	大和地区
	柳川市立三橋図書館	三橋地区
公民館	柳川市立大和公民館	大和地区
	柳川市立三橋公民館	三橋地区
	柳川市立柳河公民館	柳川地区
	柳川市立城内公民館	柳川地区
	柳川市立矢留公民館	柳川地区
	柳川市立東営永公民館	柳川地区
	柳川市立両開公民館	柳川地区
	柳川市立昭代公民館	柳川地区
	柳川市立蒲池公民館	柳川地区
文化施設	柳川市民会館	柳川地区
博物館	柳川市立歴史民俗資料館	柳川地区
	柳川古文書館（県立）	柳川地区
	柳川市雲龍の郷	大和地区
多目的施設	柳川総合保健福祉センター「水の郷」	柳川地区
その他コミュニティ施設	柳川市柳河ふれあいセンター	柳川地区
	柳川市就業改善センター	柳川地区
	柳川農村環境改善センター	柳川地区
	柳川市城内コミュニティ防災センター	柳川地区
	柳川市蒲池農村環境改善センター	柳川地区
	柳川市矢留うぶすな館	柳川地区
	柳川市有明まほろばセンター	柳川地区
	柳川市大和漁村センター	大和地区
	柳川市ふれあい自然の家	大和地区
	柳川市社会教育集会所	三橋地区

主なスポーツ・レクリエーション施設

施設名称	所在地	竣工	設備状況
柳川市民体育館	柳川地区	S 5 7	鉄筋4,508㎡
柳川市民弓道場	柳川地区	S 6 0	鉄筋317㎡、10人立
柳川市民武道場	柳川地区	S 5 2	木造318㎡
柳川市民運動場	柳川地区	S 5 0	8,796㎡
柳川市民テニスコート	柳川地区	S 6 0	410㎡、3面
柳川市民体育センター	柳川地区	S 4 9	鉄骨平屋368㎡
柳川市学童農園むつごろうランド	柳川地区	S 6 2	95,084㎡
柳川市大和B & G海洋センター	大和地区	S 5 3	体育館1,003㎡、武道館（剣道柔道）、グラウンド、テニスコート3面、ゲートボール場3面、艇庫
柳川市民有明総合グラウンド	大和地区	S 5 4	16,237㎡、多目的グラウンド
柳川市民中島武道場	大和地区	S 6 2	柔・剣道場各1面
柳川市民三橋体育センター	三橋地区	地区S 5 6	1,399㎡、バスケット2面、バレーボールコート2面、バドミントン6面
柳川市民三橋グラウンド	三橋地区	S 5 7	9,220㎡、野球場1面、ソフトボール場2面
柳川市民三橋武道場	三橋地区	S 6 1	柔道場2面、剣道場2面
柳川市民三橋テニスコート	三橋地区	H 5	全天候型3面

8 行財政

(1) 行政

これまで柳川市は、多様化する行政ニーズに効率的に対応するため、職員の適正配置に努めてきました。柳川市の職員数は、平成16年度で523人となっており、平成12年度の538人と比較して15人削減していますが、さらなる効率化を図る必要があります。

	柳川市	柳川地区	大和地区	三橋地区
平成12年度	538	293	128	117
平成13年度	541	293	132	116
平成14年度	529	283	131	115
平成15年度	528	278	135	115
平成16年度	523	271	134	118

(資料) 各年4月1日時点

(2) 財政

① 歳入

柳川市の歳入の内訳をみると、自主財源である地方税と、国から交付される地方交付税の合計額が、歳入の5割強を占め、非常に大きな財源となっています。また、自主財源（主に地方税）の比率が低く、地方交付税や国庫支出金など国に依存した財政構造となっています。

地方債は、学校等の建設事業の際に借り入れるもので、年度ごとの実施事業に関係があり、地方債依存度が高くなる場合があります。

	柳川市	柳川地区	大和地区	三橋地区
地方税	5,767,109	3,063,779	1,075,136	1,628,194
地方交付税	8,518,595	4,720,402	2,208,739	1,589,454
国庫支出金	2,670,919	1,781,037	476,512	413,370
県支出金	1,890,523	942,137	544,694	403,692
地方債	4,066,700	2,204,100	1,124,500	738,100
その他	4,585,758	2,137,671	1,458,525	989,562
歳入合計	27,499,604	14,849,126	6,888,106	5,762,372

(資料) 地方財政状況調査

地方交付税の状況

(単位：千円)

		平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
柳川市	普通	8,657,508	8,751,900	8,294,606	7,914,303	7,194,679
	特別	1,380,376	1,483,338	1,422,606	1,384,229	1,323,916
	計	10,037,884	10,235,238	9,717,212	9,298,532	8,518,595
柳川地区	普通	4,490,417	4,586,167	4,356,408	4,194,512	3,896,347
	特別	872,012	935,099	890,169	870,141	824,055
	計	5,362,429	5,521,266	5,246,577	5,064,653	4,720,402
大和地区	普通	2,480,989	2,471,828	2,306,753	2,133,625	1,884,645
	特別	326,332	359,291	349,220	335,784	324,094
	計	2,807,321	2,831,119	2,655,973	2,469,409	2,208,739
三橋地区	普通	1,686,102	1,693,905	1,631,445	1,586,166	1,413,687
	特別	182,032	188,948	183,217	178,304	175,767
	計	1,868,134	1,882,853	1,814,662	1,764,470	1,589,454

(資料) 地方財政状況調査

② 歳出

歳出では、人件費や福祉分野での扶助費、借入金の支払いである公債費など、必ず支出しなければならない義務的経費が約4割となっており、財政の硬直化が進んでいることがわかります。この比率が低いほど、政策的な経費への支出が確保され、柔軟な財政運営が行えることとなりますが、今後は、義務的経費をいかにして削減していくかが大きな課題となります。

平成15年度決算の歳出内訳

(単位：千円)

		柳川市	柳川地区	大和地区	三橋地区
義務的経費	人件費	5,039,792	2,806,942	1,156,251	1,076,599
	扶助費	3,483,676	2,045,773	691,468	746,435
	公債費	2,504,321	1,628,648	415,877	459,796
	小計	11,027,789	6,481,363	2,263,596	2,282,830
物件費		2,191,805	1,175,664	532,010	484,131
補助費等		4,131,440	2,019,956	1,137,154	974,330
投資的経費		6,576,774	3,390,896	2,203,319	982,559
その他		2,995,644	1,630,158	522,690	842,796
歳出合計		26,923,452	14,698,037	6,658,769	5,566,646

(資料) 地方財政状況調査